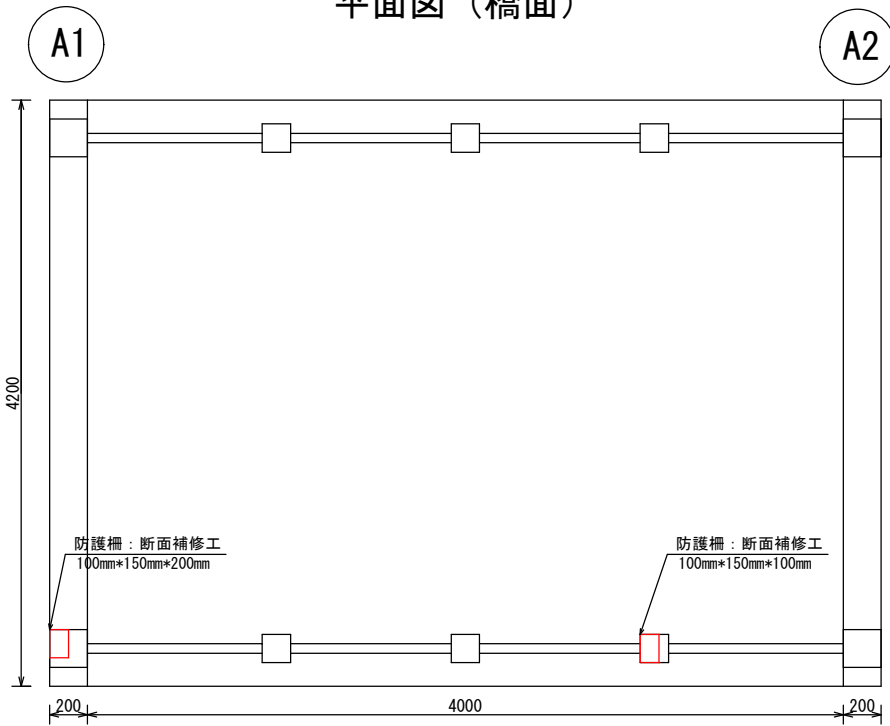
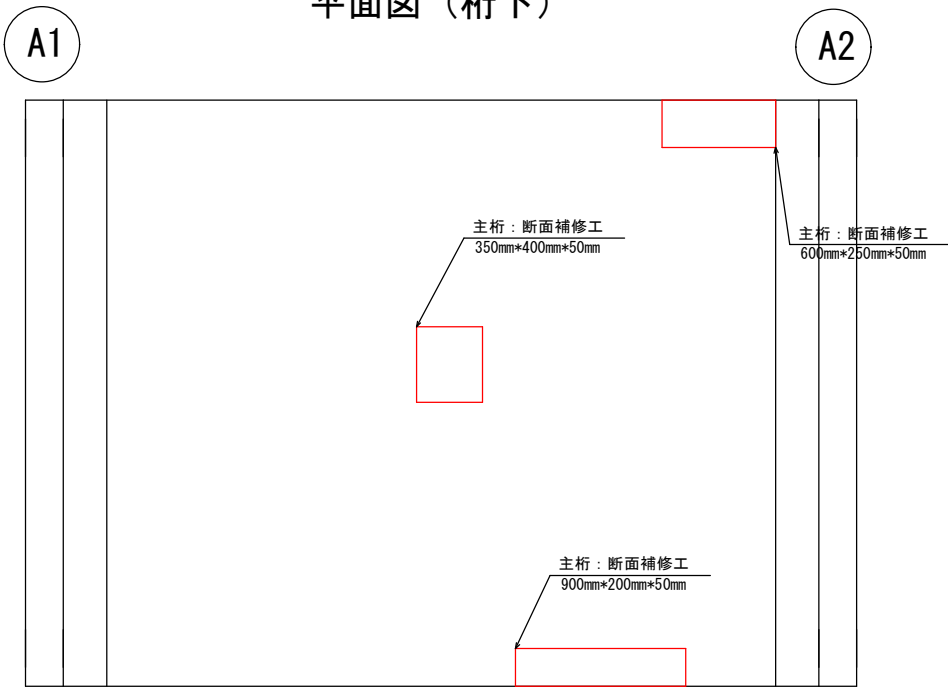


矢作2号橋 補修図

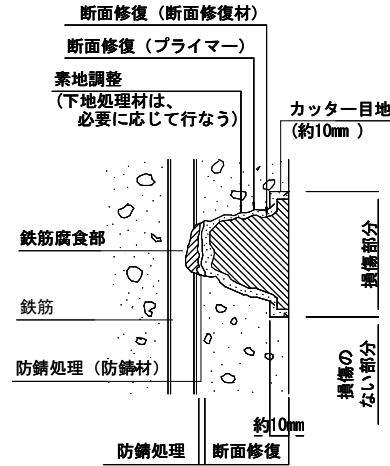
平面図（橋面）



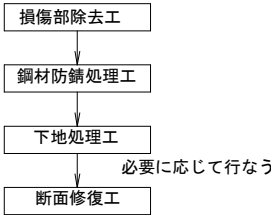
平面図（桁下）



断面修復工（左官工法）詳細図



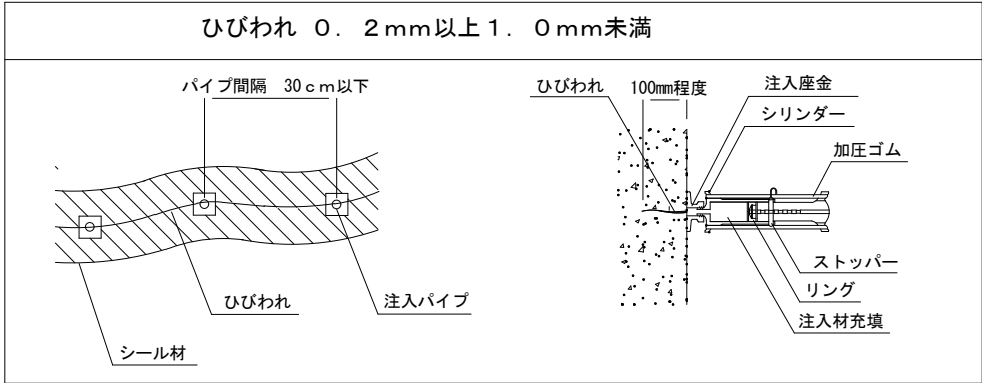
施工手順フロー



断面修復工数量表

位 置	単 位	数量計算	数 量	摘 要
主 桁	1	m3	0.60 × 0.25 × 0.05 =	0.007
	2	m3	0.35 × 0.40 × 0.05 =	0.007
	3	m3	0.90 × 0.20 × 0.05 =	0.009
地 覆	4	m3	0.10 × 0.15 × 0.20 =	0.003
	5	m3	0.10 × 0.15 × 0.10 =	0.001
A1橋台	6	m3	0.25 × 0.50 × 0.10 =	0.012
	7	m3	0.70 × 0.40 × 0.10 =	0.028
	8	m3	0.10 × 0.30 × 0.05 =	0.001
	9	m3	0.15 × 0.50 × 0.10 =	0.007
A2橋台	10	m3	0.25 × 0.15 × 0.05 =	0.001
	11	m3	0.50 × 0.15 × 0.05 =	0.003
	12	m3	0.50 × 0.20 × 0.05 =	0.005
	13	m3	0.20 × 0.35 × 0.05 =	0.003
	14	m3	0.20 × 0.30 × 0.05 =	0.003
合 計	m3		=	0.090

ひびわれ補修工（低圧注入工法）詳細図

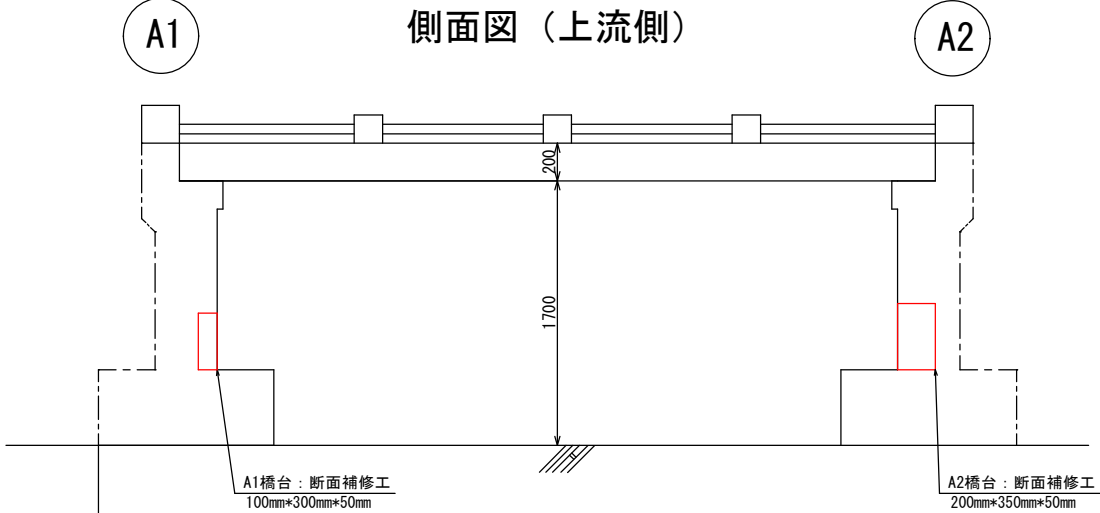


ひびわれ補修工数量表

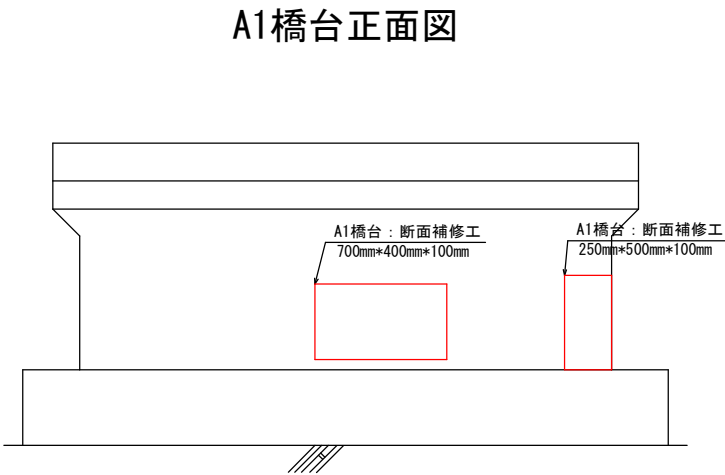
位 置	単 位	数 量	摘 要
1	m	0.35	0.30mm
合 計	m	0.35	

- この図面は、既存資料・現地検測により作成したものである。
- 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
- 資機材搬入・搬出時、仮設等については関係機関と協議を行うこと。
- 補修工法及び寸法は、調査結果により算出しているが、施工時に再度寸法調査後、適する工法を選定し補修を行うこと。
- コンクリートの脆弱部は確実にはつり落とし、補修を行うこと。
- 補修工事に当り鉄筋のかぶりが確保されていない箇所は、鉄筋を押し込み所定のかぶりを確保すること。
- 鉄筋に発錆がある場合は、鉄筋背面まではつり出し、鉄筋の錆落とし、清掃を行った後、鉄筋防錆処理を行うこと。
- 断面修復を行う際は、健全な箇所に損傷を及ぼさないよう劣化部分のコンクリートを除去すること。
- 1回の埋戻し厚は20～30mmを標準とし、下層のモルタルが十分硬化したことを確認した上で次層のモルタルを塗り重ねること。
- フェザーエッジを作らないよう、端部はカッター処理を行うこと。

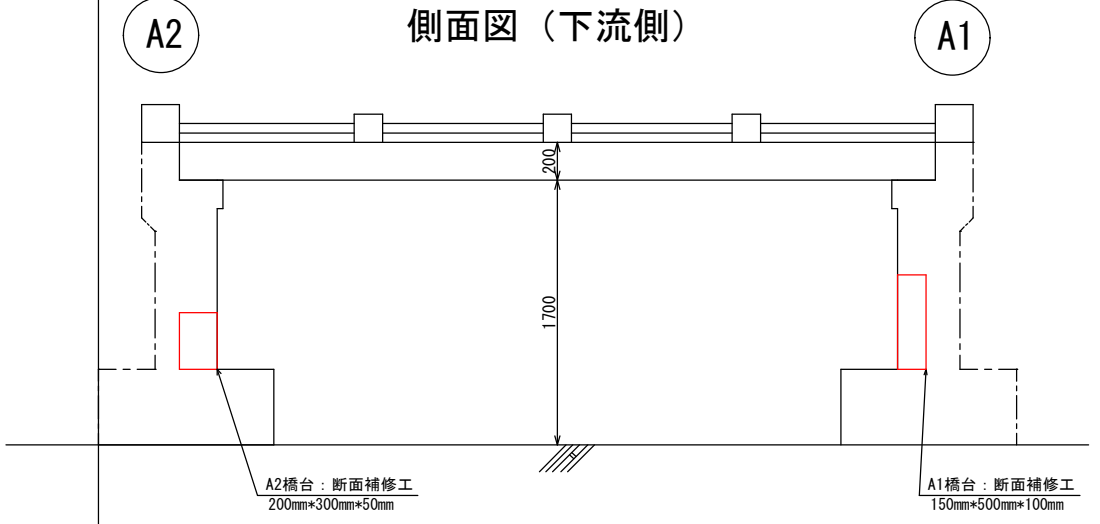
側面図（上流側）



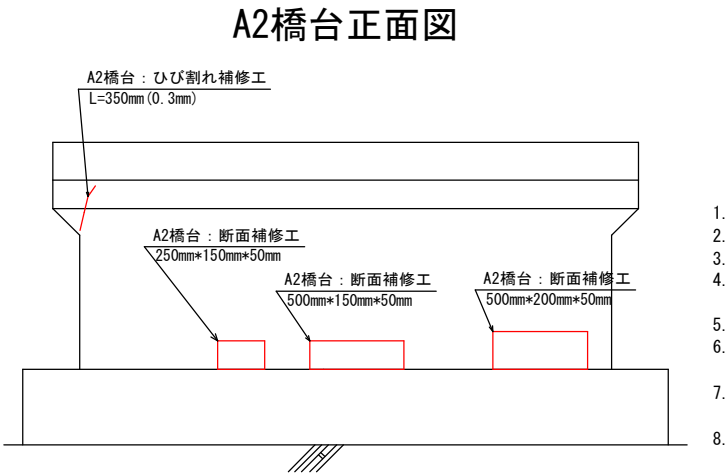
A1橋台正面図



側面図（下流側）



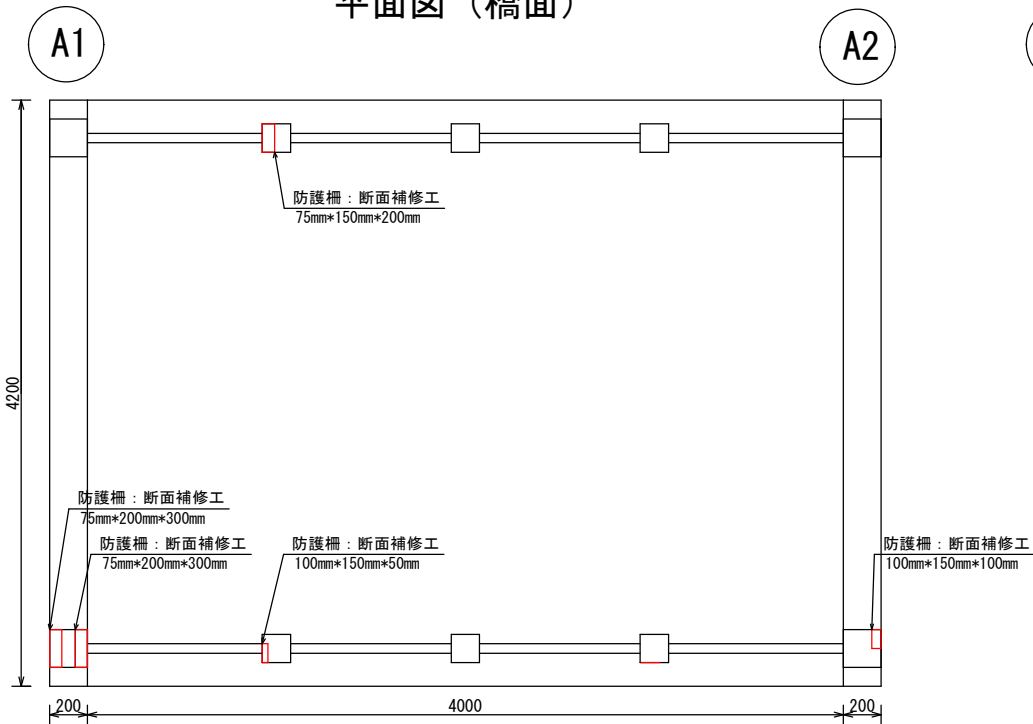
A2橋台正面図



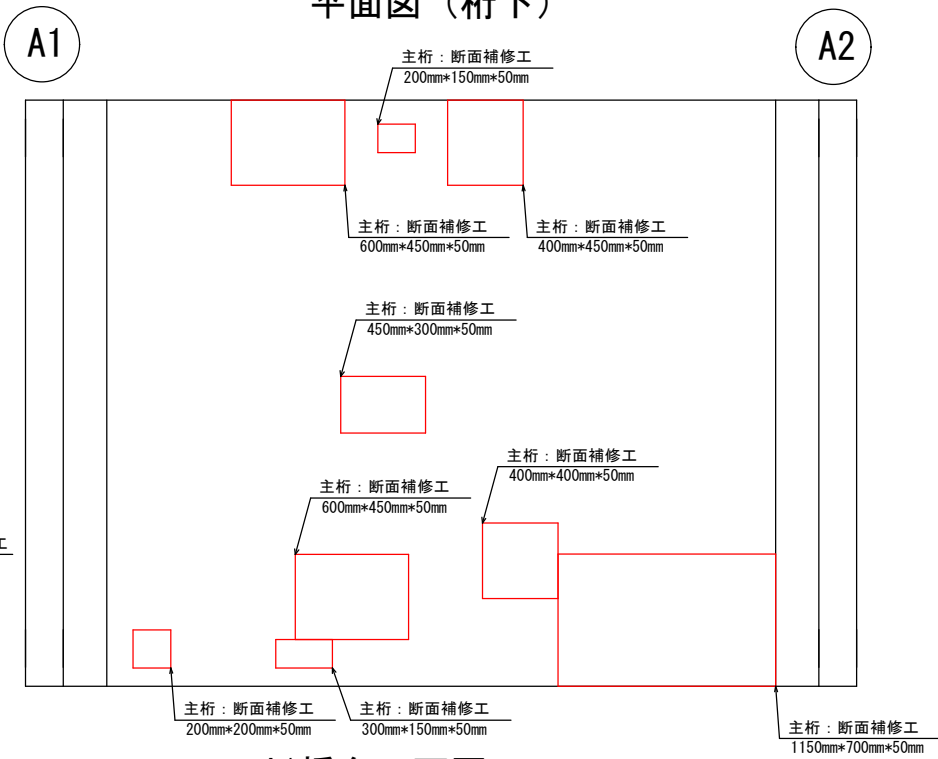
工事番号	号
路 線 名	矢作5号線
施工地名	土 浦 市 矢 作 地 内
工 事 名	
図 面 名	矢作2号橋 補修図
縮 尺	位置
設 計 者	設計年度
土 浦 市	図番

矢作4号橋 補修図

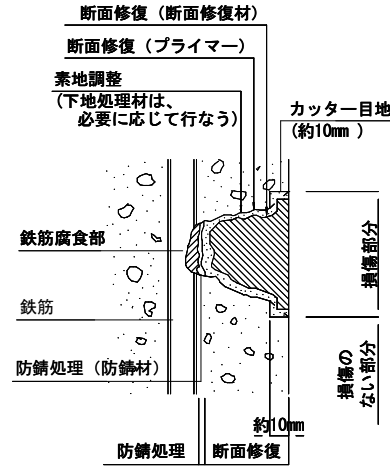
平面図（橋面）



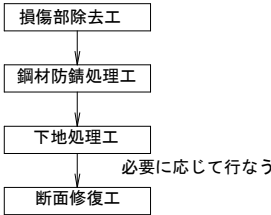
平面図（桁下）



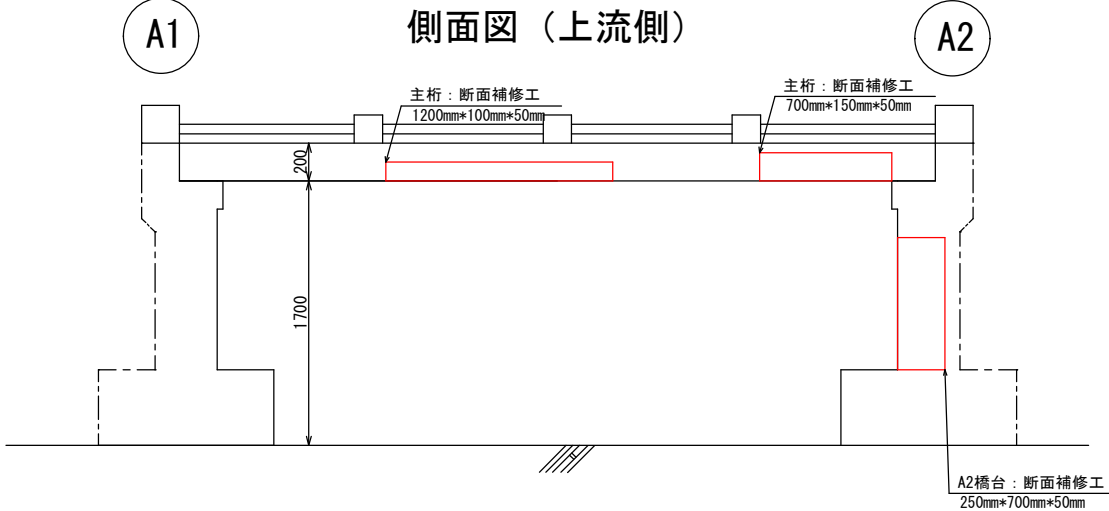
断面修復工（左官工法）詳細図



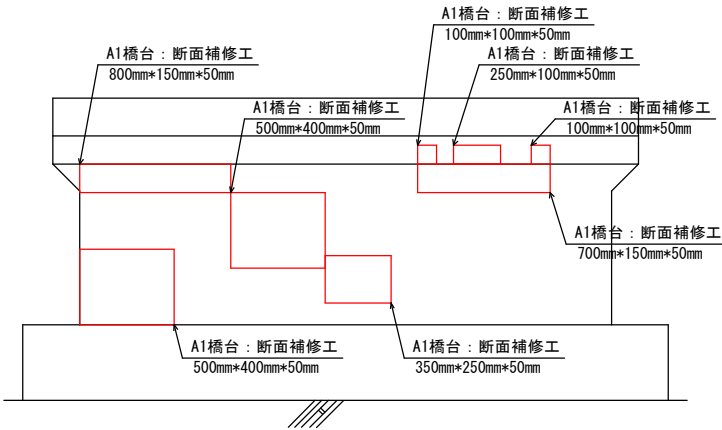
施工手順フロー



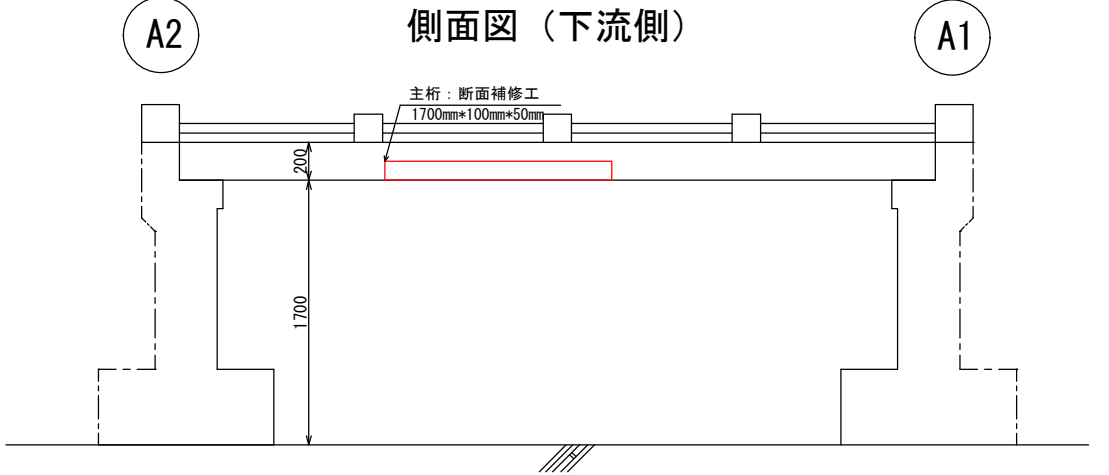
側面図（上流側）



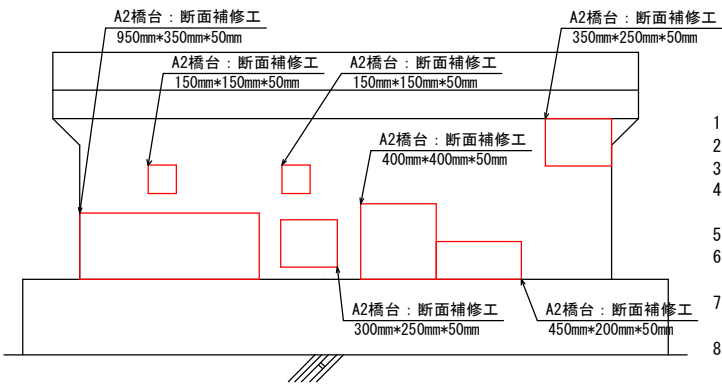
A1橋台正面図



側面図（下流側）



A2橋台正面図



断面修復工数量表

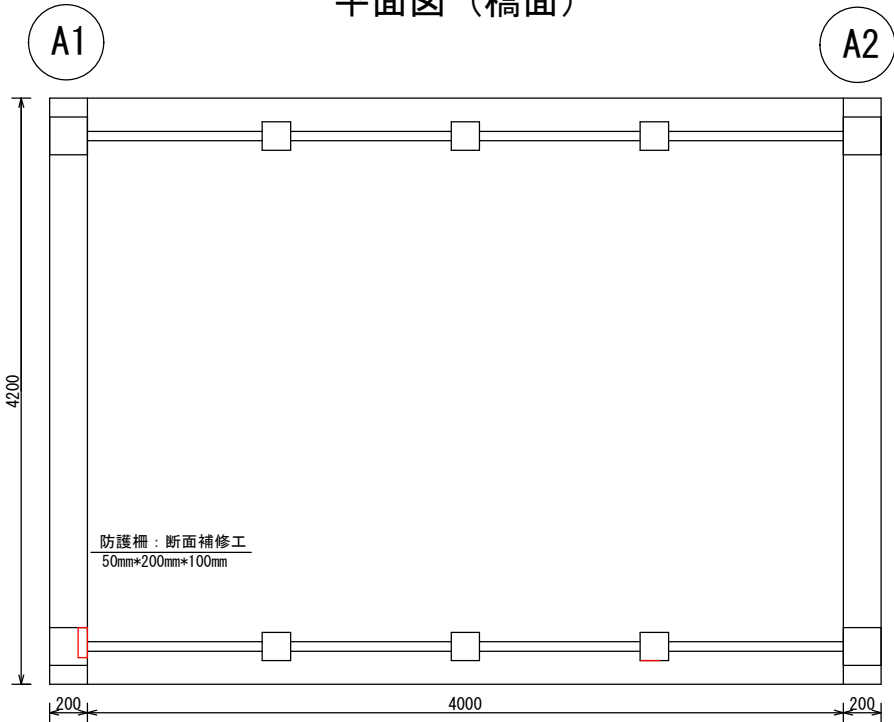
位 置	単 位	数量計算	数 量	摘 要
主 桁	1	m3 0.60×0.45×0.05	= 0.013	
	2	m3 0.20×0.15×0.05	= 0.001	
	3	m3 0.40×0.45×0.05	= 0.009	
	4	m3 0.45×0.30×0.05	= 0.006	
	5	m3 0.20×0.20×0.05	= 0.002	
	6	m3 0.30×0.15×0.05	= 0.002	
	7	m3 0.60×0.45×0.05	= 0.013	
	8	m3 0.40×0.40×0.05	= 0.008	
	9	m3 1.15×0.70×0.05	= 0.040	
	10	m3 1.20×0.10×0.05	= 0.006	
	11	m3 0.70×0.15×0.05	= 0.005	
	12	m3 1.70×0.10×0.05	= 0.008	
地 覆	13	m3 0.07×0.15×0.20	= 0.002	
	14	m3 0.07×0.20×0.30	= 0.004	
	15	m3 0.07×0.20×0.30	= 0.004	
	16	m3 0.10×0.15×0.05	= 0.001	
	17	m3 0.10×0.15×0.10	= 0.001	
A1橋台	18	m3 0.80×0.15×0.05	= 0.006	
	19	m3 0.50×0.40×0.05	= 0.010	
	20	m3 0.50×0.40×0.05	= 0.010	
	21	m3 0.35×0.25×0.05	= 0.004	
	22	m3 0.10×0.10×0.05	= 0.001	
	23	m3 0.25×0.10×0.05	= 0.001	
	24	m3 0.10×0.10×0.05	= 0.001	
	25	m3 0.70×0.15×0.05	= 0.005	
A2橋台	26	m3 0.95×0.35×0.05	= 0.016	
	27	m3 0.15×0.15×0.05	= 0.001	
	28	m3 0.15×0.15×0.05	= 0.001	
	29	m3 0.30×0.25×0.05	= 0.003	
	30	m3 0.40×0.40×0.05	= 0.008	
	31	m3 0.45×0.20×0.05	= 0.004	
	32	m3 0.35×0.25×0.05	= 0.004	
	33	m3 0.25×0.70×0.05	= 0.008	
合 計	m3		= 0.208	

- この図面は、既存資料・現地検測により作成したものである。
- 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
- 資機材搬入・搬出時、仮設等については関係機関と協議を行うこと。
- 補修工法及び寸法は、調査結果により算出しているが、施工時に再度寸法調査後、適する工法を選定し補修を行うこと。
- コンクリートの脆弱部は確実にはつり落とし、補修を行うこと。
- 補修工事に当り鉄筋のかぶりが確保されていない箇所は、鉄筋を押し込み所定のかぶりを確保すること。
- 鉄筋に発錆がある場合は、鉄筋背面まではつり出し、鉄筋の錆落とし、清掃を行った後、鉄筋防錆処理を行うすること。
- 断面修復を行う際は、健全な箇所に損傷を及ぼさないように劣化部分のコンクリートを除去すること。
- 1回の埋め戻し厚は20～30mmを標準とし、下層のモルタルが十分硬化したことを確認した上で次層のモルタルを塗り重ねること。
- フェザーエッジを作らないよう、端部はカッター処理を行うこと。

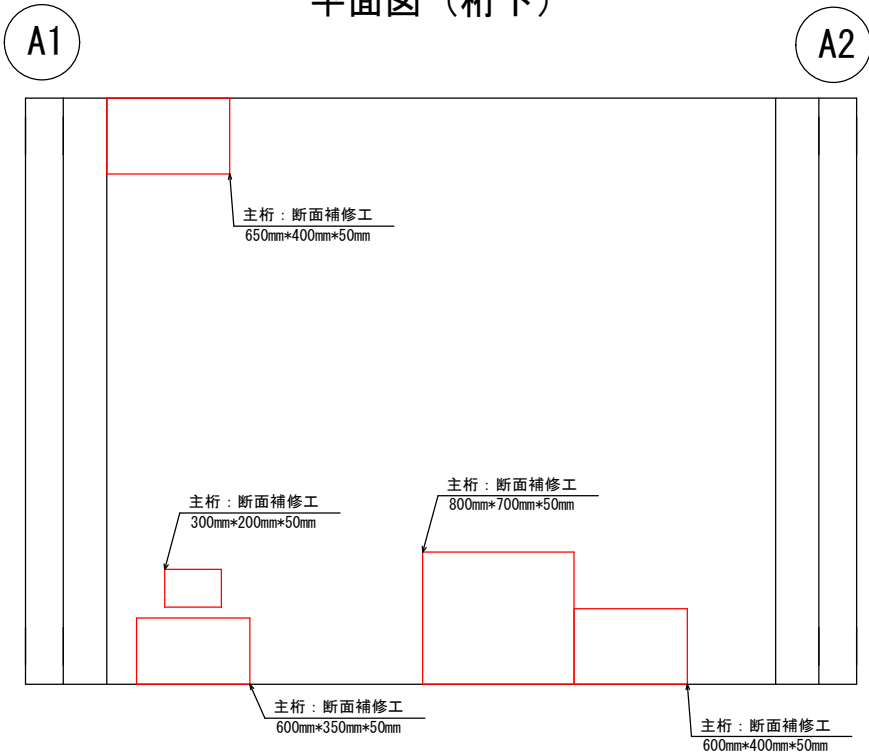
工事番号	号
路 線 名	矢作19号線
施工地名	土 浦 市 矢 作 地 内
工 事 名	
図 面 名	矢作4号橋 補修図
縮 尺	位置
設 計 者	設計年度
土 浦 市	図番

矢作5号橋 補修図

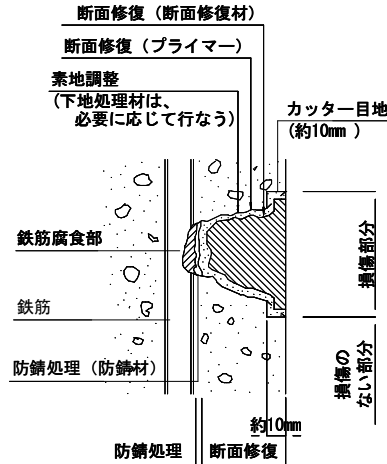
平面図（橋面）



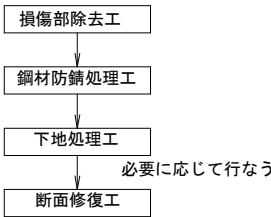
平面図（桁下）



断面修復工（左官工法）詳細図



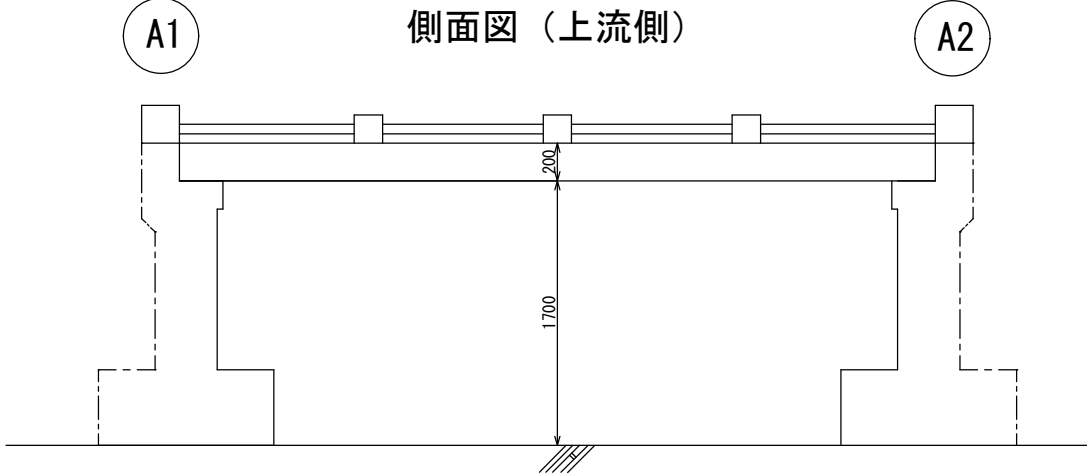
施工手順フロー



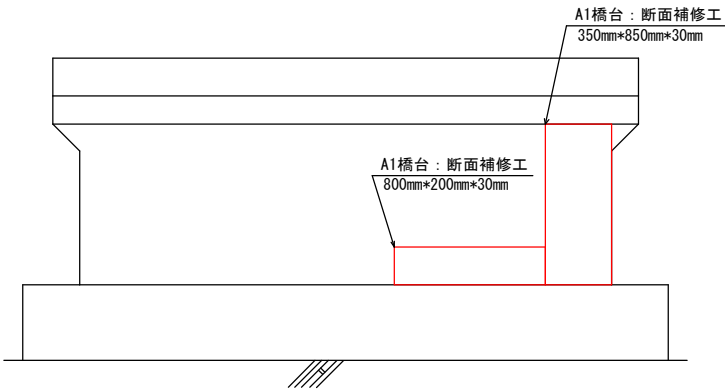
断面修復工数量表

位 置	単 位	数量計算	数 量	摘 要
主 桁	1	m3	$0.65 \times 0.40 \times 0.05 =$	0.013
	2	m3	$0.30 \times 0.20 \times 0.05 =$	0.003
	3	m3	$0.60 \times 0.35 \times 0.05 =$	0.010
	4	m3	$0.80 \times 0.70 \times 0.05 =$	0.028
	5	m3	$0.60 \times 0.40 \times 0.05 =$	0.012
地 覆	6	m3	$0.05 \times 0.20 \times 0.10 =$	0.001
	7	m3	$0.80 \times 0.20 \times 0.03 =$	0.004
A1橋台	8	m3	$0.35 \times 0.85 \times 0.03 =$	0.008
	9	m3	$0.15 \times 0.15 \times 0.03/2 =$	0.001
A2橋台	10	m3	$0.15 \times 0.90 \times 0.03 =$	0.004
合 計	m3		$=$	0.084

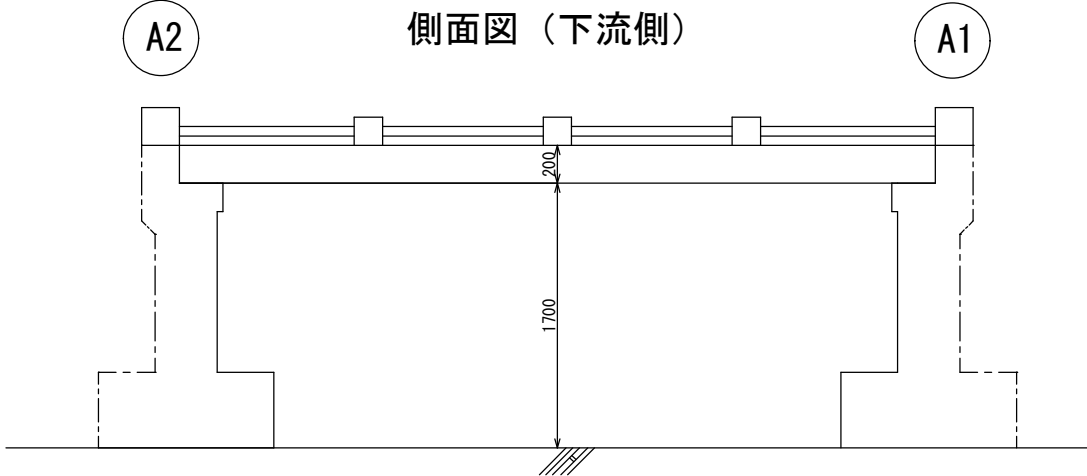
側面図（上流側）



A1橋台正面図



側面図（下流側）



A2橋台正面図



- この図面は、既存資料・現地検測により作成したものである。
- 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
- 資機材搬入・搬出時、仮設等については関係機関と協議を行うこと。
- 補修工法及び寸法は、調査結果により算出しているが、施工時に再度寸法調査後、適する工法を選定し補修を行うこと。
- コンクリートの脆弱部は確実にはつり落とし、補修を行うこと。
- 補修工事に当り鉄筋のかぶり確保されていない箇所は、鉄筋を押し込み所定のかぶりを確保すること。
- 鉄筋に発錆がある場合は、鉄筋背面まではつり出し、鉄筋の錆落とし、清掃を行った後、鉄筋防食処理を行うこと。
- 断面修復を行う際は、健全な箇所に損傷を及ぼさないよう劣化部分のコンクリートを除去すること。
- 1回の埋め戻し厚は20～30mmを標準とし、下層のモルタルが十分硬化したことを確認した上で次層のモルタルを塗り重ねること。
- フェザーエッジを作らないよう、端部はカッター処理を行うこと。

工事番号	号		
路 線 名	矢作13号線		
施工地名	土浦市	矢作	地内
工 事 名			
図 面 名	矢作5号橋 補修図		
縮 尺		位置	
設 計 者		設計	年度
土 浦 市		図番	